

F D ワークショップ

語学教育に関する学生討論と提言

解剖学第2講座

医療人育成センター 入学者選抜企画研究部門 三瀬敬治

1年次の英語教育に関する意見

1. Listening, speaking, 速読などもっと**実用的な英語**を学びたい。
2. 物語を読ませるなどの英語教育はすでに高校でやっている**ので、多少でも医学に関係する題材**の方が興味がわく。
3. 1年の前期でやる気をなくしてしまうので、**モチベーションを上げる**ような教材がよい。
4. 言葉の語源など、**興味を持たせるような内容**にして欲しい。
5. **医者になって何が必要か**という、最終ゴールがあって、**それに向かって積み上げていく**ような講義がよい。

3年次の医学英語に関する意見

1. 3年の医学英語の時間が少なすぎる。グループの配属先によって、ばらつきがある。
2. 他のアジア諸国のように、**英語の教科書**を使うようにすれば、自ずから英語能力が身につく。
3. 3年の医学英語では、**プレゼンテーションや討論**が出来る能力を身につけたい。

1年次の第2外国語に関する意見

1. 大学1年でしか第2外国語は学べないので、選択必修でよい。しかし、選択必修の科目数を現在の語学だけではなく、もっと幅を増やして欲しい。
2. 4単位（60時間）で良いという意見：物にするのにそれくらいの時間がかかる。
反対意見：英語が2単位なのに、第2外国語が4単位は多い。
3. 会話をもっと増やして、実用的な語学が学びたい。

語学教育に関する提言-1

1. 医師、医学研究者に必要な語学力を身につける。

- 英文論文を速読できる。(reading)
- 英文論文を書ける。(writing)
- 国際会議で、プレゼンテーションと質疑応答が出来る。(presentation&discussion)
- 海外の病院や研究室で仕事出来る。(communication)

語学教育に関する提言-2

2. そのために必要な語学教育

- 1年次に外国人教師による英会話を必須にする。(communication, discussion)
- 1年次から基礎医学の教科書などで、医学の専門用語に親しみ、英文を速読できるようにする。(reading)
- 3年の医学英語では、英語で発表したり質疑応答が出来るようする。(presentation, discussion)

語学教育に関する提言-3

3. 1年次の第2外国語教育

- 教養として大切である。
- 選択必修で良いが、人文系の科目の中で、選択の幅を増やす。
- 会話ができるなど、実用性の高い教育を行う。